

令和3年度



# 園だより

文京区立根津幼稚園



## 「子どもたちの遊びを支える」

副園長 野本 和美

2学期も最後の月になりました。子どもたちの遊びも楽しくさらに充実したものになってきています。遊びの充実に向けては、日々教師が計画を立てていますが、それだけにとどまらず子どもたちの思いやイメージは次々に広がっていきます。教師は、その都度幼児の思いやイメージを受け止め、どう進めていくかを考え必要に応じて計画を変化させて援助をしています。その場で担任同士が声を掛け合い、打合せすることも度々あります。今回は、そんな子どもたちを支える担任の姿をお伝えします。

5歳児ほし組が友達と相談し協力し合って作った遊園地の乗り物は、どれもアイデアや思いがいっぱいです。お客さんになった3歳児りす組、4歳児はな組が、遊園地の時間が終わって担任と部屋に戻った後、りす組が1人残っていました。時間切れになったけれど、ローラーコースターに乗りたいと座っていたのです。りす組の担任は無理に戻すのではなく「少し様子を見てほしい」とほし組担任に伝え、一度部屋に戻りました。しばらくすると、ローラーコースター担当のほし組の女兒が「どうしたの？」とりす組に声をかけました。ほし組担任が「もう一回乗り物に乗りみたいなの」と言うと「乗せてあげようか？仲間集めてくるから待って」と言い、仲間を集めて戻ってくると、一度乗せてあげました。りす組は満足そうににっこりと笑って部屋に戻って行きました。

4歳児はな組は遊園地を体験した後、「自分たちも遊園地を作りたい」とお化けを描いて貼ったり、段ボールに台車を付けて乗り物を作ったりして遊び始めました。はな組同士で繰り返し乗っていると「りす組を呼びたい」と小さい組を呼びたくなりました。突然の展開に、はな組担任は、すぐりす組担任にその旨を伝えました。りす組担任は「嬉しいお誘いだから乗せたいです。片付けの時間を変更しますね」と伝え、乗り物に乗れるようにしました。りす組の子どもたちは大喜びで乗り物に乗り、はな組は、憧れのほし組のように乗り物に乗せてあげられたことに大満足でした。

このように、毎日あらゆる場所で担任同士のやりとりがあります。子どもの思いがどうしたら叶うか、よい経験となりどう学びにつながるかを常に考えていく、そんなやりとりを大切に、今後も保育を進めていきます。



12月は今年の収めをして、新しい年に向かっていく月でもあります。子どもたちとともに幼稚園をきれいにしながら、来年への準備をしていきたいと思います。皆様、今年もお世話になりました。来年もよろしく願いいたします。どうぞよい年をお迎えください。